

令和5年度
大学生の力を活用した集落復興支援事業 実施報告書



専修大学 商学部 渡邊隆彦ゼミ
福島県喜多方市高郷町磐見地割行政区

目次

1. はじめに
- 1-1 活動背景
2. 地割集落データ
- 2-1 集落位置
- 2-2 集落風景
- 2-3 地割集落の人口
- 2-4 地割集落の年代別人口
3. 活動概要
- 3-1 活動目的
- 3-2 活動内容紹介
4. 調査スケジュール
- 4-1 一回目
- 4-2 二回目
5. 地割集落の課題
6. 提案
7. 今後について

1. はじめに

限界集落は、人口の50%以上が65歳以上で、農業用水や森林、道路の維持管理、冠婚葬祭などの共同生活を維持することが限界に近づきつつある集落のことである。2015年の国土交通省の調査では、今後10年以内に消滅する恐れがあると予測される集落は570あり、いずれ消滅する恐れがあるとみられる集落と合わせると、過疎地域全体の4.8%（3,614集落）になる。このように日本の少子高齢化・過疎化の進行を止めるためにできることを模索していくことが重要であると考え、行動していく。

1-1 活動背景

2022年1月頃にゼミナールの合宿にて、喜多方市を訪れ、地割集落の方々との交流を通して、地割集落の方々や地域支援員の方々から、強い要望と地割集落の魅力や集落の人々の人柄や優しさに触れる中で私たち自身が集落の人々を助けたいと考え生まれ、福島県の集落活性化プロジェクトに参加したのも「人」「自然」「地域」がどのような形を迎えて行くのがよいのか、実際に現地での声を聞いて少しでも役立てることがあるならば、と考えたからだ。今回、大学生の力を活用した集落復興支援事業に参加し、地割集落の方々とマッチングし、活動することとなった。

2. 地割集落データ

2-1 集落位置

福島県喜多方市高郷町地割行政区

最寄り駅：山都駅（約6.6km）車で11分

2-2 集落風景



2-3 地割集落の人口

	世帯数	人口	男	女
福島県	793,136	1852,207	909,166	943,041
喜多方市	16,138	44,199	21,226	22,973
高郷町	595	1,621	770	851
地割集落	14	34	19	15

2-4 地割集落の年代別人口（2021/10/1）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
男	1			4	2	8	4	
女	1	1		2	1	3	3	4
計	2	1		6	3	11	7	4
比率	5.8	2.9		17.6	8.8	32.3	20.5	11.7

3. 活動概要

3-1 活動目的テーマ：「検証する」

今年度の活動は、「検証する」をテーマとし、活動してきました。

前年度は「知る・体験する」をテーマに地割集落に関する情報収集を行った。そして、その情報を基に二つの目標を設定した。

一つ目は「イベントの開催」。

二つ目は「産物の販売に向けた準備」。

上記を軸に活動しく予定であったが、夏に予定していた「5集落合同魚釣り大会」が諸事情によって中止になってしまった。

よって、新たな体験活動から集落への解像度を高めることにした。



3-2 活動内容紹介

活動内容としては、以下の通りだ。

- ・サクラマス放流体験



- ・竹灯籠づくり



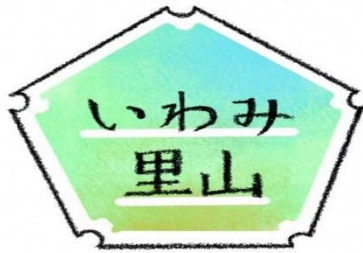
・地割集落住民の方々と食事 と収穫祭



・ナイトウォーク



・ロゴ作成



五角形で5つの集落を表している。

山のような形。

色味は緑は山、オレンジは秋の山と稲穂、柿、青は空と川をイメージして、グラデーション湖(?)

かわいい
たぐいまれい イメージ



5と内側の5つの丸で、いわみ里山が5つの集落で成り立っている。円で、それぞれの集落が助け合っているイメージ。

かわいい
やさしい イメージ

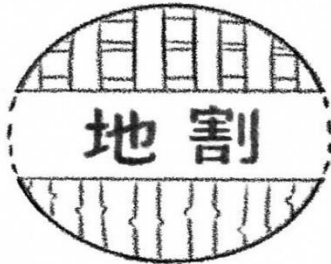


竹

青線は川をイメージ

稲穂

かわいいから漢字で。読み方もすぐ分かるようにローマ字も。



雪囲いイメージ

竹燈籠 イメージ (竹)

シンプルで
淡いからやさし。
ごちゃごちゃするから、モノクロのままがキレイな気がする。

4. 調査スケジュール

4-1 1回目：9月1日（土）～3日（月）

1回目の現地での活動は、当初魚釣りイベントの開催を予定していたが、諸事情により中止になったため、竹灯籠づくり体験とマスの放流を行い、今後の活動の方針や計画を話し合い、来年度のイベント開催のための準備を進めた。そして、集落の方たちがこれから作業をしていく場として、作業場を作成した。

4-2 2回目：11月3日（金）～11月5日（日）

11月の訪問では、集落の方の「集落から離れて生活している人々を集めたい」という要望を叶えるためのイベントを行った。周辺五集落の人々に蕎麦を振る舞う収穫祭、サクラマスの放流、今後集落のシンボルとしていく竹灯籠の製作を行うことで、集落内外から人が集まり、人々の表情が豊かになるのを感じた。

5. 集落の課題

二年の活動を通して、見えてきた「集落の課題」を以下にまとめる。

①インターネット環境が整っていない。

→活動をしていく中で、数少ない訪問以外に連絡を取ることは必要不可欠であるが、現在は“LINE “アプリでしか連絡を取ることができない。今後、「イベントの開催」や「産物の販売」を予定していることから、” ZOOM “や” Google Meet “といったオンライン会議ができるような環境が必要になってくると考える。

②「産物の販売」に向けた準備があまり進んでいない。

→産物の販売に向けた準備が「ロゴ作成」しかできていないのが現状である。販売商品の決定や販売場所の決定、商品加工場の設置などの準備を進める必要がある。

6. 提案

今後の「地域活性化」の定義を「集落全体が一年を通してアクティブに動き続けること」とし、課題とこれまでの活動から、2点ここに提案する。

①インターネット環境の整備

→イベントの開催ができなかったことや“5. 集落の課題②“の原因の一つとして、学生と集落の方々との連携不足があると考えます。今後、より濃い活動にしていくためにインターネット環境を整備すべきである。

②夏祭りで屋台を出店

→ほかの集落が屋台を出店することで地域外の交流を深めていると発表を聞き、私たちも屋台を出店することで他集落との交流を深めて、喜多方全体で盛り上げていきたいと考える。

7. 今後について

今後の方針としては、夏頃に祭りへの参加や夏・冬イベントの開催から、地割集落の産業・自然・人の魅力を伝えよう動員しようと考えている。

また、それと同時に「産物の販売」に向けての準備を進めていき、一年を通して集落がアクティブに動き続けられるような活動を集落の方々と協力して行っていきたいと考える。